

令和3年度



園だより

文京区立根津幼稚園



思いを伝える

副園長 野本 和美

今、幼稚園では、各学年「ねづっこ劇場」に向けて取り組んでいます。劇場のために特別な表現をさせるのではなく、日頃の表現活動を楽しんでいる姿を見ていただく、そんな日であると考えています。子どもたちは、日々様々なものになって動いたり、友達と思いを伝え合ったりして遊んでいます。学年の違いはありますが、思いの伝え合いが密になっている姿がたくさん見られています。

3歳児りす組では、「お皿持ってきたよ」「ありがとう」「僕も取ってこようかな」「いってらっしゃい」と、相手の言葉を受けてのやりとりが続いていて嬉しく思います。

4歳児はな組では、積み木で場作りをしている仲間に「積み木置いていい?」「いいよ」「積み木からビームが出るってことにしない?」「いいね、同じ物をここにも付けよう」「うん」と相手に思いやイメージを伝え、受け止められてさらにやりとりし合う姿が見られます。

5歳児ほし組では「やり方教えて」「端をガムテープで留めるんだよ」「分かった。あれ、うまくできない」「ズしてるからできないんだよ。押さえてあげる」など、わからないことを聞いたり、相手の困っていることを感じて言葉で知らせたり、さらに細かい部分の伝え合いが見られます。

各保育室に入るたびに素敵なやりとりに出会い、幸せな気持ちになる毎日です。

先日、根津小学校の四家校長先生より、5歳児保護者向けにいただいた「就学前に準備していただきたいこと」のプリントに「困ったときに、大人に助けを求められることが大切。「自分のことは自分でできる」ことが基本ですが、できないこともたくさんあります。まず、自分でやってみて、考えてみて、それでもできない時、わからない時は、遠慮せず大人を頼っていいことを伝えてください。」と記されていました。小学校に向けてあれこれしなくてはと焦るよりも、小学校でも、まずは思ったことを伝えられることが大切であると感じ、なんだかほっとしました。

幼稚園では、これからも相手に伝える大切さを知らせるとともに、伝わる言い方を知らせる援助をしていきます。そして自分の思いとともに相手の思いも感じ取れるようにしたいと思います。

